



毎月十五日発行 所 社 会
像 大 宗 宗
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311(代)
定価 一年送料共 1000円

神具・装束 株式会社 井 筒
福岡店 福岡市博多区東公園二丁目一三二番(812)
電話 福岡(五)六五一一九四五(六番)
本店 京都市下京区河小路三条北入(千50)
電話 京都(三)三三三三三三(四一)四番
電話 京都(三)三三三三三三(四一)四番

大祓式・夏越祭齋行

水無月の夏越の祓する人は 千歳の命延ぶと云うなり



今年は大候不順で梅雨が明けても雨の多い日が続いていたが、土用丑の日明より猛暑となった。
去る七月三十一日には、当社恒例の大祓式と夏越祭が齋行された。
「大祓」おほはらえとは古代・中世に行われた神事儀礼が神社祭礼となつて現在神社に受け継がれている年中儀式である。中世の「神祇令」には、毎年六月と十二月の晦日に朝廷(二季恒例大祓として行われ「人が知らず知らずのうち

に犯した罪や穢を除去し災厄を避ける式として始められた。この季(六月・十一月)の六日祓を水無月祓と呼び、猛暑を無罪越すため災厄除を祈る様になつた。また土用丑は年越祓と呼んで、一年間の罪穢を清めて新年を迎える心の準備をするのである。
当社では陽暦七月晦日(旧暦六月)に大祓式を齋行しているが、旧暦六月晦日とか新暦六月晦日に齋行されるなどいろいろ地方神社により異なる様である。



七月三十一日早朝、地元総代協力会の人達と若手神職により茅ノ輪作りが行われた。茅も年毎に減少している昨今ならば、大神門に掛けられる直徑三メートル余の茅ノ輪作りは大変である。
正午前、新緑鮮やかな茅ノ輪が神門に設けられた。その前に唐櫃に納められた全国各地崇敬者から寄せられた紅白の人形や、切麻・麻物、大麻等が案上へ設置され、午後五時の式典準備が完了した。
定刻五時、浄衣姿の太田宮司以下全職員を始め各地よりこの式典に参集された三百余名の参列者が大神門大茅ノ輪下に参進した。
神鳥権宮司宣読の「大祓詞」が境内に流れ、全員自己祓のあと、地・人形の祓が行われ、さらに大麻の枝を先導に、宮司以下神職

参列者は茅ノ輪を左右に古歌を奉唱しつつ潜り廻つた。
(左) みなつきの夏越の祓する人は千歳の命のふといふなり
(右) 思ふこと皆つきねとて麻の葉を切り切りても祓(つる)かな
(左) 宮川の清き流れにみそぎせば折れることの叶はぬはなし
引続き本殿にて夏越祭が齋行され、国家皇室の安泰と氏子崇敬者の災難消除、「豊稔舞」を奏して、今年の大祓式・夏越祭を終了した。

年毎に参列の人々も多くなり、炎天下に汗流し古歌を奉唱しながら歩み行く姿は美しく、猛暑を越す安全を祈る真の心を見る様である。

宗像大社
氏子会評議員 各位
宗像大社
宮司 太田 可愛
宗像大社氏子会
会長 倉元 清彦
平成十年八月吉日
茲に謹んで厚く御礼申し上げます。

奉納袋配布並に取纏め御礼
平成十年度、宗像大社夏越大祓式齋行にあたり、郡市氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中御奉仕を賜り深く感謝申し上げます。

ジャンボ南瓜

カボチャ
八幡西区在住 千々和 正信氏奉納
和正信氏 在任の千々和 正信氏
宗像大社 菊花会理事
長よりジャンボカボチャ(重量一〇〇キロと五〇キロ二個が奉納された。
このジャンボカボチャ原産地はカナダで近年大きき重量を競う大会なども行われ、

去る七月十五日、八幡西区小嶺西の千々和 正信氏より奉納されたカボチャは参拝者の皆様にも見せ戴く為折願殿内に供えております。

七月二十日まで、国立国会図書館貴重書展示室で「伊能図」が展示されていた。その測量図の精密さに来観者は大変驚いたと云う。
寛政十二年(一八〇〇)、伊能忠敬が蝦夷地(北海道)の測量のため江戸を出发したのがちょうど今頃の季節と云う。雨の深い八幡宮に参拝し、第一次測量の旅先安全を祈願したとき敬五十六歳であった。この蝦夷地測量から十六年間全国をわたり歩いて約三万五千キロ歩歩数約四千万歩、この四千万歩を踏み終えたとき忠敬は七十二歳になっていた。
井上ひさし氏の小説「四千万歩の男」に伊能忠敬の偉業が記されている。「一身にして一生を終る」、人生の二つの山を最も見事に生きた人物の一人だと、井上さんは記している。
この「伊能図」と呼ばれる我が国初の近代的地図原本は幕府に提出した後焼失したと聞く。今の世にあれば超国家的な図面と云える。
現在国立国会図書館に展示されている「伊能図」は転写した手書の彩色版であるが、その美しさと精密さ、特に主要な街道、家並み、田畑、山々が描かれ、見る人々を驚かす。美しい富士山、海岸線などは風景画もおよばないであろう。
約二百年前、この偉業を成し遂げた伊能忠敬の年齢と体力を思う時、彼の信念のすこみが窺える。
筑前の国を忠敬が計測した頃、定宿とした宿屋が宗像郡玄海町神湊にあり、現在記念碑が建てられている。

宗像大社
宮司 太田 可愛
宗像大社氏子会
会長 倉元 清彦
平成十年八月吉日
茲に謹んで厚く御礼申し上げます。

七月二十日まで、国立国会図書館貴重書展示室で「伊能図」が展示されていた。その測量図の精密さに来観者は大変驚いたと云う。
寛政十二年(一八〇〇)、伊能忠敬が蝦夷地(北海道)の測量のため江戸を出发したのがちょうど今頃の季節と云う。雨の深い八幡宮に参拝し、第一次測量の旅先安全を祈願したとき敬五十六歳であった。この蝦夷地測量から十六年間全国をわたり歩いて約三万五千キロ歩歩数約四千万歩、この四千万歩を踏み終えたとき忠敬は七十二歳になっていた。
井上ひさし氏の小説「四千万歩の男」に伊能忠敬の偉業が記されている。「一身にして一生を終る」、人生の二つの山を最も見事に生きた人物の一人だと、井上さんは記している。
この「伊能図」と呼ばれる我が国初の近代的地図原本は幕府に提出した後焼失したと聞く。今の世にあれば超国家的な図面と云える。
現在国立国会図書館に展示されている「伊能図」は転写した手書の彩色版であるが、その美しさと精密さ、特に主要な街道、家並み、田畑、山々が描かれ、見る人々を驚かす。美しい富士山、海岸線などは風景画もおよばないであろう。
約二百年前、この偉業を成し遂げた伊能忠敬の年齢と体力を思う時、彼の信念のすこみが窺える。
筑前の国を忠敬が計測した頃、定宿とした宿屋が宗像郡玄海町神湊にあり、現在記念碑が建てられている。

余滴

残暑御見舞申し上げます

博多の味

味噌せんべい 本 舗
博多の四季
有限会社 梅 月 堂
代表取締役 三 野 拓 蔵
〒812 福岡市博多区古門戸町1-11
TEL 092-291-2966

「聞く・考える・作る・伝える」ことが、私たちの仕事です。
私たちは「ヘルメス企業体」です。

ギリシャ神話に登場する神・ヘルメスは、翼の生えた帽子とサンダルを身につけ、神々の間を飛び回ってそれぞれの神の意志を伝えました。
より良いコミュニケーションのお手伝いをめざす秀巧社もまた、ヘルメスでありたいと考えます。
お客様が伝えたいことを、伝えたい人にきちんと伝えたい……秀巧社がめざすのは「ヘルメス企業体」です。

秀巧社印刷株式会社
営業本所
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通5-14-9
Tel 092-712-7711 Fax 092-714-1017
http://www.shukosha.com/

注目の第十八回参議院選挙が去る七月十一日におこなわれ、新しい議席が確定した。折から将来に明るいものがあった期待で、折から強い不安と不信を持つ中の選挙であり、政治不信で投票率の低下が予想されてきたが、逆に投票率は三年前に比べて一四・三%増の五八・八%と大きく伸びた。しかも開票の結果を見ると、その増加分がそのまま政府批判の票となり、与党の自民党の当選者は、改選前より十六議席減の四十四議席へと激減をした。

この変化に対応することはできなかった。環境は一定の上波動の枠を出て、新しい時代に大きく動く兆候を示した。しかしながら政府は、いつも変化に対応する力が弱く、ただ一定の波長をもって上下する時の政策の調整にのみ能力を持つ「官僚」に実務の起案を求め、乗り切ろうとしたが失敗だった。とくに経済への対応などは深刻で、大蔵省や経済企画庁など、政府の行政機関は完全に景気判断を読み違へ、最もタイミングの悪い時点で消費税を増税し、それで一転して景気浮揚のためにさまざまな対応策を打ち出したのだが、これが実効を上げ得ぬほどに強力で景気経済を痛めてしまった。

この方向を取り進べた行政に対する国民の批判が、このような明確な形となつて来ている以上、国会制民主主義制度をとる日本の政府の責任者が、責めを負つて辞職するのは当然のこと

と思ふ。だがこの国民の意思は、単に橋本首相一人の政治責任に対する批判に限られたものか、それとも、党内に次期首相の座をめぐる、表面裏面の工作が活発化すると思われるが、後継候補者もともに、本来は、批判をうけるべき同じ与党の仲間であることを忘れてはならない。同じ愚は繰り返してはならないものである。

何で、世界を、特にアジアを巻き込んだ大混戦も予想される。こんな時の政治の方向を決める責任者は、素人では政治に決して熟達した能力と信念を持つ者であることが必要だ。民主党や共産党が果たして相応しいといへるのだろうか。民主党は他党を批判することはでき、空想的な夢物語をすることはできるが、実際政治に関しては、確たる指針もなく、理想の共有もし得ない「市民あつて国家意識の統一なき」集団である。彼らに何をさせようとする国民は望むのか。日本共産党はその能力は別として、国民が本気で党の理想を理解して、夢を共にしては思へないものを感じる。

目先の政治の担当を決めるのは衆議院選挙である。今回は、日本の政治の基本的な能力を問う選挙のチャンス。すべき機能を持つ参議院の選挙だ。それは、国民として取り組む姿勢

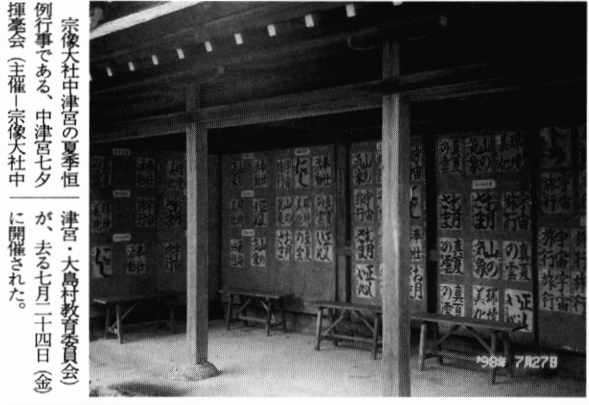
に本来は、別のものが求められて当然であつたと理解する。だが国民には、そのような長期的、あるいは基本的な問題よりも、目先の行政に関する不満が強すぎて、それをこの選挙にぶつけてしまった。さう考へれば今回の結果は理解できるし意味もあろう。そんな中でも比例区で、神速の村瀬議員が、期待通りに無事当選したのは、参議院本来の意義を考へて歓迎すべきことであつた。今後とも氏を中心としての活躍に期待をしたい。

ところで今の日本は、姿勢のほつきりしない世俗国家ではなく、世俗のみ国家になり果ててゐる。政治も目先の損得だけでなく、国の姿勢や方向を、本気で考へねばこのままでは立ち行かぬ場面を迎へると判断される。そんな大切な問題を、大所高所から論ずる場、それこそが参議院に考へる。国民の集団ヒステリーに流れた今回の参議院選挙であつたが、この次は、参議院らしい選挙をしたいものである。

参議院選挙を終へて

第四十三回

中津宮七夕揮毫会開催



この七夕揮毫会は、宗像郡市を始め県内各地の小学生を対象に昭和二十一年教育振興を目的として発足以来毎年七月に行つていて、行事で本年は四十三回目を迎えた。

当日、第一回目の揮毫者は、神湊始発市市時四十分五分の定期船「フェリー」におおしま、第二回目の揮毫者は午前八時半発の臨時船「しおかぜ」、最後の第三回目揮毫者は午前九時十五分発の定期船「おおしま」にてそれぞれ父母、又塾の先生に引率され親々と来島し、会場である大島小学校、中学校に向かった。

今日の課題は、幼稚園「トラ」、小学一年「じ」、「サザエ拾ひ」が行われ、「サザエ拾ひ」が行列で張り詰めた雰囲気から開放

され左子供たちが無邪気に海にたわむれ、水ぶきを上げながら「サザエ拾ひ」に興じていた。

午後三時すぎ審査を終了。早速審査以上の作品が中津宮神門脇廊下に展示された。ついで表彰式が、中津宮神門脇廊下にて行われ、主催者、松原宏仙先生の講評、次に各人賞者（賞状とトロフィー）が授けられ、午後三時すぎ今年の七夕揮毫会も無事盛況に終了した。

- 尚賞は左記の通りです。(金賞以下省略)
- (福岡県知事賞) 角ともか(八幡小)
 - 木庭 麻由(長峰小)
 - 大神 貴寛(東郷小)
 - 山脇 綾菜(津屋崎小)
 - 大神 佳菜(東郷小)
 - 堀川 史斗(山田小)
 - 松田 直也(柳南中)
 - 河島 佑香(筑南中)
 - (尚文賞) 内山 七重(津屋崎小)
 - 田中 洗平(矢留小)
 - 長瀬 健人(津屋崎小)
- 梅野 晃一(旭小)
- 内山 峻(津屋崎小)
- 藤又 千晶(東郷小)
- 持丸理沙(北山小)
- 中村 翠(東郷小)
- 原 由子(南郷小)
- 梅田 真央(赤間小)
- 緒方 智博(旭小)
- 橋爪 利枝(長峰小)
- 高橋 昂志(福岡南小)
- 江崎 朱美(鳥栖西中)
- 吉野 祐子(城山中)
- (ヒロカ賞) 松田 亜依(そのお幼)
- 増田 愛(旭小)
- 古賀 千尋(旭小)
- 斎藤真理佳(矢留小)
- 峰松 尚人(勢門小)
- 花田 和也(津屋崎小)
- 河島 由衣(北山小)
- 東 由衣(旭小)
- 森田 哲平(松原小)
- 有働 悠子(舞松原小)
- 下橋 亨(旭小)
- 中村 聡子(福島小)
- 金川 絵理(大島小)
- 田代 卓(八女院中)
- 田代 周(八女院中)

残暑御見舞申し上げます

福栄タクシー有株式会社

代表取締役 保井 久

代表取締役 保井 享

代表取締役 保井 享

宗像郡福岡町二六三三一八

TEL 0940-14210373

宗像グリーンタクシー有株式会社

代表取締役 藤瀬 政敏

宗像市大字河東一〇六一

TEL 0940-13313303

宗像西鉄タクシー株式会社

代表取締役 出口 典征

宗像市自由ヶ丘二一七一三

TEL 0940-13214131

宗像平和タクシー株式会社

代表取締役 塩川 弘昭

宗像郡福岡町二七二八一三

TEL 0940-14210400

新屋交通有株式会社

代表取締役 森 正彦

宗像市大字東郷八九四一三

東郷営業所 TEL 0940-2261238

みなとタクシー株式会社

代表取締役 古野 浩

宗像市大字土穴三九八一十一

TEL 0940-133113311

FAX 0940-133112244

式内社顕彰会九州支部総会開催 新支部長に太田宮司選任さる



太満宮楼門前にて記念撮影

土用丑日盛夏の中、七月二十九日と三十日の二泊二日に亘り、式内社顕彰会九州支部総会が、太宰府市の太宰府天満宮に於いて開催された。

二十一日午後一時、天満宮楼門下受付に支部員三十八名が参集し、式内社顕彰会本部大野事務局長も東京より出席いただいた。午後二時半、太宰府天満宮に上杉宮司(鎮西大社諏訪神社)支部長代行に合せ正式参拝し、記念撮影後太宰府天満宮文化研究所大会議室に於いて総会を開催した。本部事務局より全国の顕彰会役員と各支部活動状況等の報告を受け、理事入り、引続き上杉宮司より九州支部結成後の経過説明がなされ、事務局より十年の活動と会計報告を行った。さらに本総会の最重要案件である、第三支部長選任につき協議がなされた。第一支部長長養文守(前宗像大社宮司)氏が病床の為昨

を「大観荘」に移し、温泉で一休みした。午後七時よりの真昼は柔い食席で賑わった。

三十日午前九時、天満宮バスに一行は乗車、天満宮小島居権宮司の見送りを受けるから「史跡めぐり」に出発した。

天拝山・武蔵寺・櫻社・太宰府跡・戒壇院・観世音寺・とバスを進め、車中や現地において天満宮味酒権御宜の名ガイドに時間を忘れた二行は、観世音寺にて吉田義田和尚様特別の志により、一年に一回しか打たない国宝の名鐘を打ったのだき、一千三百年の名鐘の音に深く聞きほれた。

上杉宮司より支部執行部状況説明がなされ、協議のもと、第三支部長に太田可愛宮司(宗像大社)が選任された。ここに新支部長のもと、さらなる活動と会員増員を目標に新しく出発する事になった。

太田新支部長の力強い挨拶を受け、出席者一同協力を約し本総会を終了した。午後四時より九州大学名誉教授川添昭二先生の「聖古襲来と神仏」の講演があった。日本史上始めて外敵の襲来を受けたこの九州地方を中心とする情勢と神仏に国安を祈る国家体制の精緻な講演は受講者一同を魅了し、時間の経つのを忘れて一生懸命に拝聴し勉強した。

午後五時、二日市温泉「大観荘」のバスにて会場へ戻す。

第四四六回 宗像大社歌会詠草

大野 展男 選 毎月末日メ切

吉留 高山 信子
戦死せし甥を偲びて真赤なるアイゴの花活く沖繩の花
(評)「沖繩の花」とし、甥の戦死した場所を暗示している。戦後生れが総人口の七割を越える今でも詠い継ぐべき「体験者の文学」である。

朝野 藤井 浩子
画一の家建ち並ぶ手前にはあま湯遊ぶ早苗田続く
(評) 田園地帯を次第に浸食する住宅群。ここではそのぎりぎりの処が詠われてをり、この今日の風景の現実を是とするか、否とするのかに悩む作者の心情が垣間見える。そこがよい。

名古屋 小田 喜一
厩籠に選挙のチラシ捨てられ候補者の顔みても見ゆる
(評) 厩籠に捨てられたチラシの候補者の顔を詠った作者の心情は、政治に対する不信か、都市部で惨敗した篤えの憐みころか、いづれにしても単純ならざる一首で、四、五句が独自である。

鐘崎 安永 久子
身をめぐむおおかたは世交代し吾も鐘崎ここに根付けり
(評) 嫁いで来て半世紀近い歳月か、知り人の大半は逝き世交代している。正に往事を亡かの思いに居る作者の姿が浮かびあがっている一首である。

名古屋 小田 留子
句いと今年も野にラッキョウ洗う
日の里 石松 弘次
体調の戻りし朝の洗面に頬のふくらみ双手につつま

田久井上 光
幼児に鋸の挽き方教へつつ二人で切りし青竹匂ふ
福間 中村 勇
百坪の畑仕事を日課とすほどほどにせよと子らに言はれて

曲 天野 玲子
この頃の流行ならし老若ガリユック背負いてわが前を行く
日の里 石松 知子
窓の辺に清し朝の風わたり庭のむくげが百余咲きたり

池田 小田 イセ
幾躊躇え造りし築山に声もさやかに鶯の鳴く
田野 森 つるの
数知れず精霊とんば飛び交へる谷の稲田は音なく暮るる

土穴 瀧口 敦子
菜の花の輝く川を轟々と貨物列車が通り過ぎゆく
在自 佐々木和彦
小雨ふる駅前広場電線に止まる子つばめしきりに鳴けり

自由ヶ丘 細川 絹子
雨晴れし庭の日さしはやはらかに桜の葉なべて光りゆめる
日の里 大和美由紀
植えるのは何年ぶりか早苗持ち定年の夫水田に入る

社務日誌抄

- 七月一日(水) 月次祭実行午前十一時 太田宮司以下八名職員 奉仕参列、深田責任役員、地元総代、他篤信者五名 親善野球大会 太宰府天満宮と当大社 野球大会於筑紫野市 七月二日(木) 神宝館拝観、鞍手郡若宮小学校六年生二十五名 七月四日(土) 会議、宗像支部神職総代会開催、於宗像大社 七月十一日(日) 会議、菊花会運営理事 開催午前十一時 七月十五日(水) 月次祭実行午前十一時 神島権宮司以下八名神職奉仕、参列、深田、高原責任役員、倉元氏子会長地元総代、宗像國神社懸燈籠平灯明打合せ会 七月十七日(金) 祭式講習会、宗像、粕屋支部神社祭式講習会 午前九時より開催受講生十八名 七月二十一日(火) 会議、宗像大社文書編纂会議開催、於勸使館 七月二十三日(木) 参拝、出光興産(株)徳山製油所権橋所長他二名 七月二十四日(金) 七夕揮毫会、中津宮に於いて開催される。 七月二十六日(日) 参拝(宗像)少年の翼「渡航安全祈願祭」十名 七月二十七日(月) 学委員実習本日より八月五日迄始まる 七月三十一日(木) 大祓式・夏越祭実行 午後五時より太田宮司以下全職員奉仕

残暑御見舞申し上げます



美松タクシー有限公司

代表取締役 塩川 弘昭
TEL 0940-152100-15

Photo Studio 一勢

(宗像地区消防本部前)
代表 山下 誠 治
福岡県宗像市田熊1180-6
TEL 0940-36-8596

大和印刷

代表取締役 的場 重徳
宗像市大字田熊五二六-二
TEL 0940-136120-27
FAX 0940-137118-55

総合建設業 株式会社 弘江組

取締役会長 中野 弘愛
代表取締役 花田 和彦
福岡県宗像市大字稲元一〇二五
TEL 0940-131125-67
FAX 0940-131139-18

ハナダ写真館

(市役所前)
代表 山下 孝 男
福岡県宗像市大字東郷一〇三一
TEL 0940-136120-09(代)
FAX 0940-136120-99

宗像大社歌会 俳句作品集(四三)

自由ヶ丘 細川 綱子
実のりたるトマトに太き穴
のあき

福岡 森 清
日もすがら立つ五位鷹の青
田かな

若松 高橋 忠貴
梅雨晴れや羅羽の蜻蛉真狐
かな

小笹 山下しづえ
草取り日よもぎの香りかく
わしく

日の里 花田いつ枝
草に寝て流星ひとつ惜しみ
けり

藤沢 井上 玄洋
網を曳く蟻の跡に波光る

東郷 吉武 湧泉
遠蛙聞く夜は郷愁一人に

東郷 中野 きみ
降る雨や紫陽花の穂やつ
つ

東郷 吉田 鈴子
緑陰やひととき風と遊びけ
り

東郷 吉田 杏子
退院の人を羨しむ梅雨の院

東郷 三浦美千代
緑陰や石の鳥井の冷たさよ

東郷 有吉亜紀子
緑陰や高校生らの高笑ひ

東郷 田中 雨葉
女傑とも悪女とも言はれサ
ングラス
東郷 木原 房子
鼻すじに残る化粧や夏祭り

(続) 浜の寄物

129

いしいただし

七月十日の海の日が制
定されて三年目になる。こ
れを記念して、今年も各地
で海岸清掃や、海を考える
講演やシンポジウムが各地
で開催された。それに関連し
て東京へ行ってきた。

東京へ行くところからず
寄り道がある。上野の
国立科学博物館とアメイザ
ム横丁で催された。それに
関連して、今年も各地
で開催された。それに関連し
て東京へ行ってきた。

国立科学博物館では、失
われた大陸ゴンドワナの支
配者・大恐龍展 が開催さ
れていた。今迄南米・オー
ストラリア大陸の恐龍はあ
まり知られていなかったの
で興味があった。巨大恐龍
が多く、その巨大さに親子
づれや、中高生、恐龍ファ
ンの驚きの声があふいてあ
った。夏休みの自由研究
であろう、小中学生は熱心
にメモをとっていた。

隣接する東京国立博物館
では、漆で描かれた神祕の
世界・中国古代理漆展 が
あっていた。中国湖北省・
曾侯乙墓や雨台山・望山・
沙家の墳墓から発掘された
木棺や副葬品の中の、漆を
使った食器や武器、彫刻類
である。特に圧巻は曾侯乙
墓の木棺で外棺は復元(レ
プリカ)だったが、その中
に納められた内棺は本物で
ある。内棺の全面に漆が使
われ、文様の精緻さには驚
嘆した。棺の側面に描かれ
た二十の異様な姿の武人
達はすべて才を誇る威風
凛々とした。戦国期・前五
世紀のものである。中国古
代の漆工芸の高さと文化を
感じさせる展覧であった保
存も修復も見事だった。つ
いで久しぶりに考古資料科
で造られたと聞いていたの
で訪ねてみた。

少年時代に浜田青陵(耕
作)が「博物館」のなかで
モース博士が大森貝塚を発
見するエピソードが語られ
挿絵にはモース博士が土器
を見ている姿が描かれてい
た。

モース博士が明治十年
(一八七七)アメリカから
船で横浜に着き、横浜・新
橋間の鉄道で東京へむかう
とき、大森駅付近で、線路
の両脇におびただしい貝殻
があるのを見つけ、その後
ここを調査、貝塚であるこ
とを確認した。この貝塚の
発見調査こそ日本考古学の
出発となった記念すべき地
でもある。

京浜東北線で大森駅下車
道路をはさんで丁良線側が
品川区、道路のむこう側が
大田区である。五百メート
ルほど歩く。「大森貝塚遺
跡庭園」の表示が見えた。
小丘の上に地層のレイアウト、
縄文土器の文様、ベンチ等
が置かれ、中央の左側にモ
ース博士が土器を手にとっ
てながめているプロシヤ展
が建てられている。その横に
は功績をたたえた銅板の碑
もある。右手には一部貝層
(貝層復元)が見られるよ
うにしてあるが大森貝塚そ
のものか、レプリカかは雨
降りに出た確認できなかった。
パネル板で縄文時代の人
々のくらしも解説されて
いる。



大森貝塚 博士モース

翌日、仕事が終わって、浜
谷区神南にある「たばこと
塩の博物館」へ行った。ユ
ニークな博物館で、入場料
大人百円を払って館に入っ
た。内外の「たばこと塩」
を集めて解説されている。
四階では塩ができる迄の実
験や塩を使った遊びを含
めた実験の紹介があっとい
った。夏休みで小中学生がい
っぱいだった。それらの実験

たりと思ひたりしを、爰よ
りみれば一ひらの大なる嶋
く、良なる二ツはやく低
く、目の下に見渡さるる
ばかり也。そのいやはてに
ある峯を白嶽といふ。
こは餘の峯よりも、其い
ろ殊に白き故に号く。峯の
岩に尻かけて、西北の海を
はるばると見渡すに、長く
引はへたるは津島也。
つねに磯より見ゆるは、
国府の上なる銀山、こは誠
に高山にて、かの辺にては
外にかぞふべきみみえず。
日ころ小島の多くなるらび

や説明を、大学生や中学生
達がおもしろく聞かされて
小学生が熱心に聞いてい
るのが印象に残った。塩の
コーナーのところでは現在
の海の様子を神奈川県・平
塚市立博物館から借りてき
た「漂着物」も展示されて
いた。

帰るまで時間があつたの
で品川の大森貝塚跡庭園
が造られたと聞いていたの
で訪ねてみた。

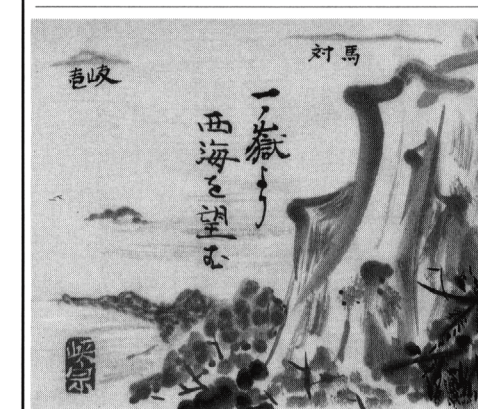
な おモース博士が発見し
た大森貝塚の正確な場所に
ついては今迄はっきりしな
かつた。昭和四年品川区大
井に「大森貝塚」の碑がた
ち、翌五年に大田区山王に
「大森貝塚」が建てられて
いたが、近年、正確な地番
を記した文書が発見され品
川区大井側に決着した経過
がある。

青柳種信著 瀛津島防人日記(下巻ノ二)

七月二日。つめて早朝、
一の嶽にのぼる。
峯は磯より三十町ばかり、
いとさかし岩のかけち
(懸崖)にて、いづこを道
ともわきまへず。石綱ある
は木のうれなどを踏で、み
山の嶺ならねど、かなたこ
なたにつたひたり、やう
やう峯に登りつきて見れば、
峯は只麓より立のほりたる
一ツの巖也。
その岩白くして遠く見放
れば、山はなべて雪の積た
らんが如し。
これより良の方をさして

峯三そぼだちたり。此みね
は、西南のかたに在て最高
く、良なる二ツはやく低
く、目の下に見渡さるる
ばかり也。そのいやはてに
ある峯を白嶽といふ。
こは餘の峯よりも、其い
ろ殊に白き故に号く。峯の
岩に尻かけて、西北の海を
はるばると見渡すに、長く
引はへたるは津島也。
つねに磯より見ゆるは、
国府の上なる銀山、こは誠
に高山にて、かの辺にては
外にかぞふべきみみえず。
日ころ小島の多くなるらび

たりと思ひたりしを、爰よ
りみれば一ひらの大なる嶋
く、良なる二ツはやく低
く、目の下に見渡さるる
ばかり也。そのいやはてに
ある峯を白嶽といふ。
こは餘の峯よりも、其い
ろ殊に白き故に号く。峯の
岩に尻かけて、西北の海を
はるばると見渡すに、長く
引はへたるは津島也。
つねに磯より見ゆるは、
国府の上なる銀山、こは誠
に高山にて、かの辺にては
外にかぞふべきみみえず。
日ころ小島の多くなるらび



雲なまたなびき
いましばしありまき
どいひつつ、土さげ(裂)
て照る日をもいはずまも
りるに、やあやりて雲の
立のほるまにまに、暎如山
の端などみえたる、人々あ
なやといふ。
そは鰐の浦の東北いと遠
そき(退)て、雲かとのみ
あやまたる。此島より北
方也。八月・九月比の、清
きさやかなる時ならししか
ば、とぞいひあへりける。

残暑御見舞申し上げます



神酒 宗像

宗像大社神酒
櫛の露
勝屋酒造合名会社
社長 山本博次
宗像市大字赤間九五七
TEL 〇九四一三三三〇一〇
FAX 〇九四一三三三〇一〇

宗像大社神酒
神酒宗像
福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
合資会社 伊豆本店
伊豆善也
TEL 〇九四一三三三〇一〇

日本紙工株式会社
九州事業部
取締部長 大 力 重 治
事業部長 寺 田 修
福岡県粕屋郡新宮町大字立花口二番五〇
TEL 〇九四一三三三〇一〇



暮らしの夢を大きくひろく
株式会社 城山家具
代表取締役 寺 田 修
宗像市大字三郎丸五一九一
本館 〇九四一三三三〇一〇
城山二 〇九四一三三三〇一〇

鮮魚仲買 有限 やまえ水産
卸・小売業 会社
会 席、仕出し、鉢盛御用命に応じます
代表者 安 部 實
宗 像 郡 玄 海 町 神 湊
TEL 〇九四一六二一〇〇〇六
FAX 〇九四一六二一〇〇〇六

SANCS

事務機・文具・オフィス家具
株式会社 サンクス
代表取締役 藤 井 俊 孝
宗像市東郷一〇九一―三
TEL 〇九四一三三三〇一〇
FAX 〇九四一三三三〇一〇